

### 30【P1】I-006

(+)-Phomasetin の全合成

○土居下 慎司<sup>1</sup>, 杉岡 智教<sup>1</sup>, 新藤 充<sup>1</sup>, 宍戸 宏造<sup>1</sup>(<sup>1</sup>徳島大薬)

【目的】(+)-Phomasetin は、カビの一種である *Phoma*. sp. より単離されたポリケチドであり、HIV-1 に特徴的な酵素である HIV-1-integrase の阻害作用を有することが報告されている。今回、phomasetin の初めての全合成を目的に研究を行った。

【実験・結果】(S)-Citronellal を出発原料として用い、トリエン (1) を合成し、その分子内 Diels-Alder 反応によりオクタヒドロナフタレン (2) を高収率、高ジアステレオ選択的(95%, >99de)に得た。次いでこれをアセチレン (3) へと導いた後、ペンタジエニル側鎖を導入し (4) を合成した。最後にテトラミン酸部分を構築し、(+)-phomasetin の全合成を達成した。

